

# くすのき



## ～ 令和元年度学校評価について ～

本校の学校教育目標「人間性豊かな氷丘っ子の育成—自ら学び辛抱強く努力する心豊かな子—」を達成するために、この一年間、教職員一丸となって教育活動を推進して参りました。その教育活動の達成状況やその達成に向けた取組の適切さについて評価することにより、学校として組織的・継続的に改善を図ることが、毎年実施している学校評価の目的です。

学校評価には、本校教職員による評価「学校自己評価」と、学校評議員の方々に行っていただく「学校関係者評価」があります。昨年度と同様に、本年度も実践目標の中の「重点事項4項目」に絞って、学校評議員のみなさんに関係者評価を行っていただきました。その結果を保護者の皆様等に公表することで、学校の成果や課題の共通理解を図りながら、次年度の学校運営の改善と教育水準の向上に努めたいと考えています。

### ～お知らせ～

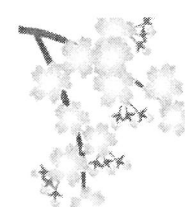
PTAや学校支援ボランティアのみなさんから寄付頂いたウェルビーポイントで、バスケットボールを購入いたしました。次年度の授業で活用致します。ありがとうございました。

### 【 教職員の自己評価・学校評議員による評価 】

評価基準 (A:ほぼ達成 B:7割程度達成 C:5割達成 D:達成には遠い)

重点事項	児童に道徳的な心情・判断力・実践意欲と態度・習慣等は育っているか。
教職員の自己評価	<p>1. 挨拶等の基本的な生活習慣 2. 社会の決まり 3. いじめを許さない態度</p> <p>C 「氷丘っ子よい子大作戦」を徹底し、意識付けができてきている。児童会も毎朝挨拶運動を実施する等の取組を行い、習慣化を図っている。ただ、道徳心については家庭との価値観、認識のずれが広がってきていると感じる。家庭と学校が協力して子どもの道徳的価値観を醸成していくことで、集団や社会のきまりを守る子を育むことに繋がる。また、道徳の授業でいじめを題材にした教材に重点的に取り組むなど、3学期に学校独自の「心の相談アンケート」を行うことを継続し、豊かな心の育成に努める必要がある。</p>
学校評議員の評価	<p>B 日々の指導において児童の心の持ち方やあり方について繰り返し指導していただいている。今後も「考え、議論する道徳」を推進し、家庭とも協力・連携しながら実生活の中で生かし定着させていく。</p> <p>毎朝の挨拶は大人から声をかけると必ず返ってくるし特に低学年は大声で挨拶をしている。保護者が子どもに教えていくことが一番。先生方の努力はよく伝わっている。家庭との密な連携が重要。児童会による毎朝の挨拶運動はとても元気があって気持ちのよいものなので続けて頂きたい。</p> <p>道徳の学習では、携帯電話に関する内容で現実起こり得る今の時代に合った問題を取り上げてくださり、親子で話し合う場を持てて良かった。</p>
重点事項	登下校の安全対策は、十分に機能しているか。
教職員の自己評価	<p>B 十分になされている。手厚過ぎるという意見があるが、現在の低学年下校時の対応があるから下校時の問題が解決されている。家から送り出す際には保護者が旗当番で立つ、学校から送り出す時は職員が…というバランスを大事にしておく。登校時間が他校に比べて早すぎるという意見もある。急には変えることはできない。すぐ早い登校班には、地区役員に相談して少しずつ遅らせるようにする。</p>
学校評議員の評価	<p>B 登下校の安全対策については、PTAや地域との協力と指導により十分になされている。今後も「自分の身は自分で守る」という安全意識を高めることが大事であり、指導を継続して、しっかり安全を確かめて登下校できる子に育てていく。集合時間や出発時間は適正である。早過ぎる場合は地区児童会、地区役員との連携を図り対応していく。朝、下校時の先生方の活動には頭がさがる。</p> <p>登校時は見守り隊をはじめ多くの方に見てもらっている為児童の行動も非常によい。下校時は立番が少なく、児童が遊びながら帰る為少し危険な場面を見かける。</p> <p>下校時、先生、交通指導員、ボランティアの方々のおかげで親の立当番がなくとてもありがたいと思う。登校時間が他校に比べて早過ぎるという事を知らない保護者も多くいるように思う。全体的に少しずつ遅らせることができるよう検討できないものか…。</p>

重点事項	不登校傾向にある児童の理解や支援は、組織的に対応できているか。	
教職員の自己評価	C	<p>毎月、児童支援対策委員会を実施したり、保護者との面談を複数の職員で行ったりして、学校全体で組織的に対応している。全く登校できていなかった児童が、少しずつ登校できるようになるなど成果が上がっている。しかし、3学期になって不登校傾向にある児童が増えるなど担任の負担は大きい。</p> <p>児童の変化やサインを見逃さず、未然防止に努めるとともに、SA、SC、SSWと密接に連携し、効果的にカウンセリングルームを運用するなど、児童の支援を継続していく。また、保護者の悩みに寄り添い、心のケアにも注力する。</p>
学校評議員の評価	B	<p>支援の必要な児童の情報共有や実態把握に努め、教師間の共通理解は十分にされている。今後もケース会議において検討・分析し、専門的な立場からのアドバイスを受けながら、さらに相談体制や支援体制を図っていく。</p> <p>家庭内の問題が大きく影響していると思う。学校としてはよくできていると思う。家庭内の会話が必要。親として考えを変える必要がある。見直しの継続が重要。</p> <p>成果が上がってきているので焦らないでほしい。学校全体で組織的に対応できているので大丈夫ではないか。</p> <p>不登校傾向の児童には、とても手厚くフォローされていると思う。保護者とのコミュニケーションがとても大切だと思うので、児童とともに保護者のケアも引き続き継続して頂きたい。</p>
重点事項	いじめの未然防止・早期発見・早期対応への組織的な取組は、機能しているか。	
教職員の自己評価	A	<p>「いじめはいつでもどこでも起こり得るものだ」という認識を職員間で共通理解し、未然防止・早期発見の組織的な取組により、いじめの認知件数が増えてきている。(1月末：今年度33件、昨年度15件)「心の相談アンケート」を実施する、年6回の教育懇談を実施する等の具体的な対策を継続していることの結果と考える。また、昨年度に続いて、担任が人を思いやる心を育む指導を基盤に学級経営を行う、様々な立場の職員が連携して子どもたちの様子をよく見る、道徳教育を充実させる等の取組も継続していく。</p> <p>今後も様々な方法でいじめの未然防止・早期発見に重点を置き、努めていく。早期対応についても、速やかな報告、複数教員による組織的で迅速な対応を徹底していることで成果を上げている。</p>
学校評議員の評価	B	<p>日々のふれあい、アンケート調査、面談、授業などにより、早期発見・早期対応に努めておられ効果をあげている。今後も「どこでも起こり得る」という認識のもと、児童の少しの変化も見逃さないよう意識して指導を継続していくことや全教育活動の中で取り組んでいく。</p> <p>小さいいじめまで認知すると件数が多いが、学校としては非常に感度を上げて取り組んでいると思う。</p> <p>心の相談アンケートでは本音を書けないという声も聞くので、先生方に相談できる環境を作って頂くとともに、引き続き迅速な対応をお願いしたい。</p> <p>先生方の高い意識で成果が上がってきている。今後も頑張っていたきたい。</p>



今回、「学校自己評価」と「学校関係者評価」の2つの「学校評価」で成果と課題が明確になりました。また、学校評議員の方々からは、学校運営についての提言もいただいております。令和2年度は、本年度の成果と課題、ご提言を踏まえながら本校の教育目標を達成するために、日々の教育活動をさらに充実させていきたいと思っております。

子どもたちの成長のために、本年度ご尽力いただきありがとうございました。今後もご理解とご協力をお願いいたします。

